会　　議　　録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 令和３年度　第1回協働推進懇話会 |
| 開催日時 | 令和３年１０月２５日（月）１３：３０～１５：３０ |
| 開催場所 | 和光市役所５階　５０３会議室 |
| 出席者 | 《委員》　　　　　　◎会長　〇副会長■学識経験者〇粉川　一郎（武蔵大学社会学部メディア社会学科　教授）■市民団体を代表する者◎森田　圭子　（NPO法人わこう子育てネットワーク　代表理事）山川　由美子（NPO法人みんなで元気　代表理事）■公共的団体を代表する者加山　秀夫　（和光市自治会連合会）冨岡　俊宏　（和光市商工会）塚本　拓　　（和光市社会福祉協議会）片山　義久　（和光市ＰＴＡ・保護者会連合会）■和光市協働推進庁内調整委員会中川　大　　（和光市政策課）■和光市協働推進ワーキング安井　翠　　（和光市政策課）《令和２年度　協働提案事業報告者》和光おもてなし隊　３名和光市秘書広報課　１名《事務局》市民環境部部長　伊藤市民活動推進課　野中、林、町村、橘 |

|  |  |
| --- | --- |
| 次第 | １　委嘱式・任命式２　会長・副会長の選出３　自己紹介４　協働推進について５　今年度のテーマについて６　令和２年度実施　協働提案事業報告会《市民提案》「心を込めた花で明るい街づくり」（和光おもてなし隊）７　その他 |
| 会議資料 | １　次第２　令和３年度和光市協働推進懇話会委員３　和光市の協働推進に係る調査研究報告書～令和２年度～４　協働事業提案制度　事業報告会　～資料～・わこらぼ交換日記・和光市協働事業完了報告書・和光市協働事業収支決算書５　協働事業評価シート |
| 傍聴者 | ４名 |

|  |
| --- |
| 会議　内容 |
| 《１　委嘱式及び任命式》（司会：事務局）委嘱式及び任命式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため割愛□市民環境部 伊藤部長より開会挨拶（伊藤部長）市としては新型コロナウイルス感染状況を踏まえた上で、地域課題やニーズに的確に対応した新たな市民活動支援の在り方、協働の進め方を共にに作りあげ推進していきたい。また和光おもてなし隊の皆様が昨年度実施した「心を込めた花で明るい街づくり」の報告会では、多種多様な地域活動を展開している市民団体の皆様のためにも今後のより良い地域活動や協働事業実施に繋がるよう忌憚のないご意見を頂戴したい。《２　会長選出及び副会長指名》（事務局）和光市協働推進懇話会設置要綱第５条規定により会長及び副会長の選出を行う。会長は委員の互選により、副会長は委員の中から会長の指名により選出する。（粉川委員）『会長』は学識経験者というケースが非常に多いが、地域に根差したことを議論する場合には地域住民が会長をすることで、より実行的な議論ができるのではないか。和光、埼玉を代表する市民活動の専門家である森田委員を推薦する。（一同）異議なし。（事務局）　一同異議なしのため、森田　圭子氏に会長をお願いしたい。□会長挨拶（森田会長）　『わこう子育てネットワーク』代表。懇話会について地域の中で市民活動を良くしていく、地域のメンバーで行う、という点において共感している。皆様の意見から市民活動のきっかけが生まれるようにしていきたい。□副会長指名（森田会長）　副会長は粉川委員を選出。□副会長挨拶（粉川副会長）　学識経験者は様々な地域を見、色々な状況をこの場にて伝え、皆様で考えていただくための『種』を配る役割だと考えている。議論を活発にするような情報提供をしていきたい。《３　自己紹介》（進行：森田会長）□各委員3分程度で自己紹介（氏名、団体名、これまで取り組んできた活動や協働について）（森田会長）　協働提案推進事業で行政と『ホームスタート』という家庭訪問型子育て支援を１年間トライアルを行うことから始まった。未就学児が一人でもいる家庭で、手をあげた人に、地域の子育て経験のあるボランティアが訪問し、一緒に話したり出かけたり共に過ごしたり、気持ちを支える事業で、現在は制度として市から委託を受けている。実績のない事業に関し、いきなり制度をつくることは困難なため、どんな効果や成果が生じるかトライアルを行うには良い制度である。また『子育て通訳サポート』の事業を行っており外国籍の孤立した子育て世帯のサポートの仕組みを事業として運用し、コーディネートを市からの委託を受けている。そのため協働推進事業には関わりが深い。市民と地域をどう変えていくかという視点で懇話会は良い機会だと考える。（粉川副会長）　専門はNPO論で、特に非営利組織の評価や、パートナーシップの評価を専門にしている。現在日本NPO学会の理事をしており、来年６月にオンラインで行われる２３回大会の実行委員長をしている。もし和光の協働推進懇話会発で何か学会で発表したいことがあれば、そのような形で情報を公開していくことも面白いかと考える。（山川委員）　『NPO法人みんなで元気』代表で、元気な高齢者に向けた取り組みを行っている。高齢者全員が介護保険を活用できるわけではないため、介護保険までのつなぎ部分を支援、あるいは介護保険を使用せず、健康長寿を全うできる、地域の中で元気に生活いただけるようサポートを行っている。また介護予防の取り組みのほかに、様々な世代の方と繋がりながら、自分たちができることを地域に活かしていく、いずれ支えてもらうことにもなるため繋がりを作っていく、そのための楽しい取り組みや無理なくできる取り組みを地域の中で行っている団体。NPOになり９年目。色々な方のアイデア知恵を借りながら、色々な方と繋がりながら行っていきたい。（加山委員）　和光市自治会連合会。自治会の代表として意見ができたらいいが、１０２ある各自治会が独自で活動を行っているため難しい。自治会として何かできることがあれば調べ紹介したい。現在、実際こういうことをやっているとお伝えできる大きな情報はない。現在はコロナ禍で活動自粛している状況。自治会が衰退しており、活発ではないのはどうしてか、話を聞きながら確認していきたい。（冨岡委員）　和光市商工会メンバーとして参加。主にかかわってきたものは３方向。１つは商工会委員として、主軸では冬のサンタクロースイベントのリーダー。鍋グランプリ等でアイドルフェスティバルを開催。個人としては、地域盛り上げ隊として、『RISO』というパーカッションチームをつくり、地域のイベントや各小学校にてワークショップを開催。ひとつ見分を増やす、和光市が楽しくなるように、と活動を実施してきた。数年前に和光市役所の方と協働した『和こたん』というイベントでは実行委員長をし、３年間リーダーをしていた。企業家としては駅近くのゴルフ練習場駐車場にて、社員、地域の繋がりのある方々と、一昨年和光バーディゴルフ祭を実施。今後も行っていきたい。イベント中心に活動しているが、生活プラスアルファの幸せという部分を活かしていきたい。（塚本委員）　社会福祉協議会に入り７年目。地域福祉コーディネーターを行っている。元々和光については知らず、和光市に来た当初は仕事のみの生活だった。しかし３か月を過ぎた頃、アルコイリスを知り、アルコイリスの市民活動の場から様々な人と出会った。昨日もオンライン会議を行ったが、元々遊びとして繋がっていたことが仕事に繋がったりしている。地域の人たちが仕事だけではなく色々なことをしていたことが繋がるきっかけとなった。仕事だけではなく様々な活動をしている委員の皆様と情報を共有し、懇話会にて形にすることもだが、それぞれ家に持ち帰り、仕事やプライベートでも繋がっていけたらいいと考える。（片山委員）　和光市PTA・保護者会連合会。協働事業推進会議委員を４～５年行っている、以前は和光市商工会青年部に所属し出席していた。協働事業としては平成２６年に和光市商工会青年部部長を行っていた時に、郷土かるたを作成した。５０万円の予算を市から、また企業や個人から寄付をいただき、各小中学校や市内図書館に配布した。かるた大会を継続しており、実施している。２月にも実施予定。今回協働事業提案制度報告を行う、おもてなし隊の副会長も行っている。今後も市民活動を行っていきたい。（中川委員）　和光市政策課。和光市協働推進庁内調整委員会より参加。昨年より委員として委員会に参加しているが、２年前までは事務局として参加していた。現在は政策や企画の調整、法令の審査を行っている。和光市公式LINEアカウントを作成している。（安井委員）　和光市政策課。和光市協働推進ワーキングより参加。市民参加を担当としており、和光市の市民参加はどうすれば良くなるかと日々考えている。市民参加と市民協働は切り離すことができないことだと考えているため、今回市民協働について勉強をしていきたいと考えている。□質疑応答（森田会長）　市民参加と市民協働はどう違うか。（中川委員）　市民参加は基本的に市民の方々からご意見をいただき市の政策に活かしていくこと、協働はまちの地域課題を市役所と市民だけではなく、企業やあらゆる主体の方が一緒に働いていこうということ。協働の前に市民参加あり。政策課としては市民参加を行い、協働の種を蒔いている状態。（粉川副会長）　実は違いについては明確ではなく、地域ごとに考えていけばいいものだと考える。以前佐賀県佐賀市にて市民参加と市民協働について１年間議論をし、協働というのは組織対組織のコラボレーション、市民参加というのは組織に対し個人としての市民が参加することと定義したが、全国には広がらなかった。難しく考えるより、和光では、まず市民参加から間口を広げ、そこから市民協働という形として皆様にイメージとして共有できていればいいのではないかと考える。（塚本委員）　冨岡委員へ質問。２年前にゴルフ練習場の駐車場で行ったまつりが良かった。特に良かった点は平日の夕方に行ったこと。和光市は昼間の流出入が多いため、平日夕方は市外に出勤している方々の帰宅時間帯であり、すごく良かった。次はいつ開催するか。（冨岡委員）　コロナ禍のイベント開催については世の中で意見が二分しているため、企業として、親として、個人としての責任がある。やるなら盛大にやりたいが、中途半端に行うならば中止する。望まれるものは一度止めても必ず再開の声が上がるため、筋を通し行いたい。《４　協働推進について》（事務局）□市役所総点検について市独自の裁量で見直しを行うことが可能な全事業について市役所総点検を実施。結果、協働については２点見直し。①地域課題解決に即したより具体的な市民協働を推進していく観点より、市民団体を代表する委員を1名→2名へ、有識者の人数を2名→1名へ変更。②協働提案制度廃止。理由：団体、市各課からの提案減少のため。　今後真に必要な協働事業については各所管課で予算計上し事業を行うことが可能なため。□令和2年度調査研究報告書及び今年度事業について《調査報告書より》昨年度は『With コロナ、Afterコロナ時代の市民活動、市民活動支援について』という議題のもと課題抽出、解決策について話し合った。昨年度の懇話会にてあがった８つの課題①高齢者の孤立②コミュニティの再生③スマートフォン、Zoom等のITリテラシー④行政の情報提供⑤組織の継続性⑥モビリティ⑦資金不足⑧多世代交流→第３回懇話会では上記で特に重要な４点（①高齢者の孤立②コミュニティの再生③ITリテラシー④行政の情報提供）の解決策をディスカッションした。→《今年度》事業報告書を受け下記２点実施予定①高齢者向けのつながりづくりを目的としてスマートフォン講座※公民館、住民の皆様、山川委員に尽力いただいている。②動画を活用した地域情報発信を目的とした地域クリエイター養成講座※現在公民館、各ステークホルダーと実施に向け議論中。今年度スタート予定。《今後》ハードの整備：コミュニケーションの拠点づくり、多世代、多文化交流のプラットフォーム創出、市役所6階の交流スペースリニューアルを地域の方々と共に考え築きあげたいと考える。□わこらぼまつりについてわこらぼフェスとマルシェの２つのコンテンツからなる協働がテーマの祭典。わこらぼフェスの目的：多様な人材が持つ強みのコラボレーション、和光市の魅力の創造及び発表、課題解決へのアプローチ、コロナ禍における新しいまちづくり手法の創出マルシェの目的：市内で活動する団体や個人等の発表の場の提供、誰もが楽しめるマルシェを参加者がつくること共通の目的：市民や和光市との関わりを持つ人同士のつながり形成、まちづくり、協働の推進主体となる新たな担い手、活動団体の発掘、多世代・多文化交流今年度：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、わこらぼフェスのみオンラインにて開催。来年度：令和４年５月29日（日）実施予定《５　懇話会のテーマについて》（森田会長）市民協働、現在の協働推進について市から報告があったが意見、質問等あるか。毎年懇話会ではテーマを決定し市長に提出しているが、どのようなテーマがいいか。　テーマを絞り議論していきたい。（冨岡委員）　テーマ決定にしても、協働推進懇話会が、一体何をして、何を目的にゴール地点を求めて、何ができるのか、実際意見を出し合い提言するだけの場なのか、または実際にでた内容をこのチームで形にして事業を行ったうえで報告するのか、この集まったチームで何を行うか、意見を明確に言うためにも定義を知りたい。（森田会長）　事務局より説明いただきたい。（事務局）□委員へ懇話会設置要綱を配布　今までは多角的なアイデアをいただき昨年度も報告書という形で総花的な提案と課題解決策をまとめていただいた。それを基に、市が実現可能なものについて、新たに事業を進めていくというのが今までの懇話会のあり方だった。しかし市内には『自身の行っている活動の中で、まちをこうしたい』という強い思いの方が多い。懇話会を通し実際のアクションにつなげていきたいというのが事務局としての考えである。ここでテーマを決め、実際まちの中で生まれてくることで話が進めば、懇話会メンバーを中心に更にメンバーを増やし、実際の事業を行っていくという流れになればいいと考える。設置要綱としては２条『市の協働推進について総合的な視点で調査研究し、その結果を市長に報告する』までが協働推進懇話会の位置付けである。（冨岡委員）　企画発案のようなものか。調査をし、データに基づいて行うのか。（森田会長）　その点は詳しくは記載がないため、そういうことをしても良さそうだが、調査研究という内容のため、何か現場を調査、研究したりして伝えることが目的ではないか。より具体的に活かせる意見をまとめていくためにもテーマを決めていくことが大切ではないか。（粉川副委員長）　通例このような協働に係る委員会が、どういう役割を果たすかは各自治体によって様々である。設置要綱に記載されているとおり、市の協働推進について統合的な視点で調査報告をしなければならないが、市役所総点検にて和光市での課題解決に即した、より具体的な市民協働を推進していくという言葉をいただいた。結果和光市民が集まり、単に市に提言するだけではなく、市と一緒に始めてみることができるメンバーが集まった。和光でまちづくりをしていく、あるいは市民の方々に参加をしていただく場を作るにはどのようなアイデアがあるか、懇話会で市と協働で行ってみるのがいいのではないか。昨年度の報告書の観点等で、具体的に何ができるか考える議論をしていけたらと思う。（山川委員）　懇話会委員３年目だが、１年目のときは何をすべきかわからなかった。昨年度の報告書にて、具体的に動き出したものが先ほど事務局より説明があった。様々な地域で活動をされている方がいて、色々な視点から課題等アイデアとして浮かぶと思う。その中で、どのような対策をとれば進めていけるか、その中で連携しながら色々な方を巻き込み進めたらと思う。例えばテーマが見つかった時に、実際どこでどうやって行うかが課題となる。一堂に会して話し合う場が和光市には意外と少ないため、集まって話し合える場があれば、色々なことが分かり合えたり進みやすいのではないか。現在どのように活用されているかわからないが、例えば市役所には元保健センターや元レストラン等あると思う。力や意見を出し合い共有できる場があっていいと考える。　中々集まる場がないというのは立往生してしまう原因であると思う。6階の交流スペースもあると思うが広さや時間等制約があるため、市民が活動ができるようなスペースが市の中にあってもいいのではないかと思う。（片山委員）　市役所6階のスペースは、平日市役所が開庁している時間のみ開いているため、普段仕事をしている人間は中々使用できない。大きな市だと市民推進センターがあったりする。商工会は事務局があり荷物を置いたりできるが、個人、仲間レベルだと荷物を置いたりする場所もない。貸倉庫や、市のために活動している方が物を置ける場所、普段から使用できる場所がほしいと常々思っていた。またコロナ禍でインターネット回線をイベントの都度ひいたり、会議をするにしても、まずインターネット回線がどうなっているか確認から入る。通信インフラの整備、Free wi-fi等市民が自由に使えるものがあればいいと思う。（塚本委員）　総合福祉会館はFree wi-fiがないが、皆さんスマートフォンを持っている。2階高齢者福祉センターにてyoutubeの話等されているが、自身のデータを使用するためインターネット速度が遅かったり、自身のデータ通信費が発生するため使用しづらい。特に高齢者は動画の容量が重いと理解していないことが多い。皆でインターネット動画を見ておいて、そのまま再生し高額な請求が発生してしまう。少ない年金の中から料金も支払わなければならない。携帯会社のシールが扉等に貼ってあると、Free wi-fiが入ると勘違いし、対象外であっても無料でインターネットを使用できると思ってしまう。ワクチン接種等もインターネットを使用しなければ予約できない。スマートフォン、インターネットが使用しやすい環境になると、より良いと思う。（加山委員）　自治会としては、主だった課題がない。どちらかというと、積極的ではなく、役員をやりたくないというように、関与せず何もないほうがいい、という感じである。自治会自体を廃止する地域もある。皆さんの仰る課題を自治会にぶつけても興味を持たないし相手にされない。それが課題点。皆さんが参加できる、役員を続けられるモチベーションは何なのか、取り組み方、意見を聞きたい。どちらかというと参加したくない、声を掛けないでほしいという意見もある。ただ反面、自治会として何かやってほしいという意見もある。災害を通すと、皆自治会が必要だと思うが、実際普段の防災訓練では参加率が悪い。何かあったときは頼むという話はあるが、日頃から積極的にやっていこうという雰囲気は和光市全体で無いと思う。（粉川副会長）　世の中的には自治体に対する考え方は大きく分けて二つ。①組織率が下がって役員の成り手がいない、高齢化。自治会を再生する動き。そのためには変化が必要。大きな柱としてはデジタル化がいわれる。インターネットを使用し参加しやすい状況にする。回覧板をやめ、webページを見る、メールを配信する、LINEを配信する。②自治会という形を見直す。大きな単位で再編し、新しい地域の組織をつくる『地域運営組織』と呼ばれるもの。大体小学校区サイズで各戸参加ではなく個人参加で地域の人々に集まってもらい一つの組織づくりをする。防災、子育て等様々な地域課題を担っていく。それまで自治体が担っていたお祭りや地域の懇談会はその地域運営組織の部会という形で運営。役員数も減少されるため、運営の効率化が見込まれる。各自治体が自分の地域ではどういう形で行うべきか、議論していく重要なテーマだと考えている。いずれにせよ地域の人々が互いに顔見知りになる、人間関係が形成されないとどれも上手くいかない。国土交通省が５～６年前に積極的に行っていた『小さな拠点づくり』というものがある。都市部というより中山間地域対象。人々が気楽に歩いて行ける範囲で、そこに行けば人に会え、買い物もでき、困りごとも相談できるといった拠点となる場所が地域の中に現在ない。商店街がなくなったり、公民館は目的が公民目的ではないと使用できない等縦割りで場所も分散されている。一つ小さな拠点があると皆集えるという動きがある。皆さんの話を聞いていると、今までの人が集まれる場所づくりと、自治会をどうしていくかということは実はそこまで遠くはない。小さな拠点も、例えば自治会単位で考えていくアプローチと、一方で和光全体で市民活動を考えていく大きな賑やかな拠点をつくるアプローチと、両方を考えていくと両立していくのではないか。（加山委員）　クラブ活動も高齢化とともにやめてしまったり、例えば階段が上れず、施設使用ができなくなることもある。市民がより良い活動をできるようになればいいと思う。（粉川副会長）　融通して使えるようにしたらいいのではないか。例えば階段のある所の上は公民館とは異なる市民活動の方が使ったり、階段のないスペースは今まで使っていなかった隣の施設のものを使えたり、融通できたり整理できるといい。その為にも市役所が連携していかなければいけないと思う。（冨岡委員）　生まれも育ちも和光市のため、自治会は身近に感じているが衰退という意味で言えば、昔は『誰かがやらなければならないなら自分たちがやる』という気風だったが、現在は平和になったからか、『誰かがやってくれるでしょう』に変わってきている。気持ちを理解しないと人が集まる場所も作れないと思っていて、今の時代、人を集めるためには面白味であったり、旨味がないと、まず人は集まらない。先ほどの拠点をつくるというのも、例えば施設と限るとお金が掛かるし、管理していく人がいなければならないとなると、誰かがやってくれるだろう、と他人任せになる。単純に人が集まる拠点になるのであれば、木の下でもいい。今は物よりアイデアや企画が大事であり、物や場所に頼らない拠点づくりができればと思う。一堂に全員集まらなくていい。例えば木の下で、子育ての悩み会を提案したり、保険意見交換会とか、アイデアで人を集めるというのを、色々な分野の方がいらっしゃるこういう場で吸い上げれば多範囲的な意見がでると思う。自身の意見として、自治会はあったら良いと思う。先ほどあがった、人となりがわからなければ破綻してしまうというのはその通りで、信頼できない人とは何もできない。序盤で山川委員が仰っていた皆が集まれる企画案をこういう場で話し、各自治会に提案したりと、企画チームとして成り立ったら面白いし協働としても多方面の問題も吸い上げられ、それを自治会に落としていくとすれば、各地域でその問題解決をし、自治体も和光市も自分たちも盛り上がっていくのではないか。　場所といえば、市民広場があまりにも市民広場として活用されていない。協働提案制度廃止に代わり、公共施設の貸し出しに関し、制限緩和等、市の後援がないと使用不可、というのは懇話会を審査の場にしてもいいのではないか。また新しくできる児童館もまだスペースがあるということであれば、自分たちの誇りになったり集まりやすいという意味で、市民でモニュメント作成をするのはいかがか。ここに行きたいと思う場所を市民が作ることができたら大切にしていくと思う。高齢になったときに子供に自慢し、子供たちも新しく作ろうとシンボルが出来ていったら面白いのではないかと思う。（森田会長）　意見を総括すると、市民が参加したり集まってくるような場、貸倉庫、バーチャルな場所等、実際の場も含め、様々なアイデアを皆で話し合い、人が市民が参加する、集まることをアイデアとして出していくという方向性でよろしいか。　今年度のテーマは『気軽に集まることのできる企画・仕組み・スペース～まずはみんながつながろう』とする。（安井委員）　冨岡委員が仰っていた誰かやらねば、から誰かやってくれるだろうという流れを実感している。面白味があるアイデアできっかけづくりができたらと思う。（中川委員）　市民広場については何年か前に市民活動推進課として所管と調整したが、実現できなかったことである。市民が参加するアイデアが今年度のメインテーマになるのではないか。例えば市民広場をメインターゲットとしていくのも良いかと思う。《６　令和２年度実施　協働提案事業報告会》（森田会長）昨年度実施した事業報告を事務局より説明。（事務局）令和2年度に実施した協働事業提案制度に基づく事業について、和光市協働事業提案制度実施要綱第１６条に基づき、報告会を実施。発表、質疑応答の後、和光市協働事業提案制度実施要綱第１７条及び、協働提案事業評価要領に基づき、成果等の分析、評価を行う。配布資料『わこらぼ交換日記』『和光市協働事業完了報告書』等の資料、及びこれから行う事業報告の内容を評価材料とする。『わこらぼ交換日記』とは事業団体と行政が、日記の作成を通じて相互理解を深めること、事業そのものを見つめなおし、より良い成果を目指すことを目的とした対話型評価シートである。各委員は協働事業評価シートにて記入、評価を実施。□発表時間：２０分（発表１０分、質疑応答１０分）□発表方法：任意形式スクリーンにて各小中学校花育成、駅前花設置写真映像市内第二中学校2年生　感想文発表□事業名：「心を込めた花で明るい街づくり」□発表団体：和光おもてなし隊□質疑応答：和光おもてなし隊、和光市秘書広報課（伊藤）（おもてなし隊）　期間：令和２年４月１日～令和３年3月1日。コロナ禍で五輪は1年延期となった状況下でプランターでの花育成の準備及び小中学校にてオリンピック・パラリンピックの機運醸成、啓発教育等を実施。　スクリーン上画像にて状況説明。4月からスタートする予定だったが、半年遅れで10月から実質的に実施。学校に入り育成等行いたかったが、コロナ禍で難しい状況であったため、DVDを自主制作し、学校へ配布し花を育てていただいた。　3月で事業期間終了したが、今後も教育委員会、各学校と連携しながら事業を継続していきたい。□質疑応答（森田会長）　何か質問等あるか。（粉川副会長）　コロナ状況下にてスケジュール変更に見舞われる等、各学校等との調整が大変だったのではないか。苦労した点を伺いたい。（おもてなし隊）　校長会にてスケジュールは事前に直接お伝えし連携をした。授業の弊害になることは一切なかったと解釈している。（粉川副会長）　苦労は秘書広報課にもあるのではないか。調整等はどうだったか。（秘書広報課）　オリンピック自体がどうなるかといった状況下で、おもてなし隊は柔軟に対応いただいた。例えばDVDを作成し動画を各学校に配布する等対応ができた。　（おもてなし隊）　花プランターを１７の各学校から駅まで運ぶ作業が大変だったが、全てにおいて秘書広報課が運び出しを行ってくれた。□事業評価（森田会長）　これから委員は事業評価を行う。（委員）　評価シートにて評価実施（森田会長）　評価シートをもとに、事務局で「協働事業評価書（案）」の取りまとめをし、市長に報告する。会長と事務局に一任いただけるか。（委員）異議なし。《７　その他》（事務局）□今年度懇話会　第2回：１２月、第３回：２月予定□次回会議：１２月６日（月）１４時～１６時　場所：和光市役所５階　５０２会議室以上 |